

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都小金井市本町 5-19-2
園名	アスク武蔵小金井北口保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

英語での鳴き声は？

～同じものを聞いていても人や国によって違う表現をすることを学ぶ

<テーマの設定理由>

子ども達に親しみやすい動物の鳴き声を通して、同じものを聞いていても人や国によって違う表現をすることを知らせきっかけとなると考えたため。また、歌うことがダンスなど音を使った表現がと行くな事が多く、聴覚を使った内容があっていると感じたから。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【環境】

・動物の絵カードを使用し、どの動物の鳴き声か分かるようにした。

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：

身近な動物は 英語だとどのように鳴くのか？を考える。

探究活動の様子：

英語講師が複数のフラッシュカードを用いて、動物の名前の英語での言い方を紹介する。また、実際の動物の鳴き声を音源で聞き、英語と日本語での鳴き声を確認する。子ども達は日本語と英語の表現の違いに「そんな風になくの～」と不思議そうな反応を示したり、面白がる姿もあった。

ふりかえり（保育士の気づき）：

動物によって全く違う鳴き声の動物もいるので、子ども達は聞きなれない鳴き声に不思議そうな表情もあったが、興味深そうにしていたので、日本語以外でも表現があることに気付くきっかけになったと感じた。身近な物の音の表現についても探究していけると、さらに活動の広がりができると思うので、今後の活動に繋げていきたい。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

身近な動物は 英語だとどのように鳴くのか？という問を通じて、言語が違くと表現も変わるならば、鳴き声以外の音はどうなるのか？と考える。

探究活動の様子：

英語講師が複数のフラッシュカードを用いて、動物の名前の英語での言い方を紹介する。子どもに前に出てきてもらい、カードの紹介や鳴き声を発表してもらい、興味を持って活動に参加できるようにした。また、実際の動物の鳴き声を音源で聞き、英語と日本語での鳴き声を確認する。

保育者が子ども達に違いについて声をかけ、子ども達は意見を言ったり、他児の考えを聞いて違いについて気付いている様子があった。

ふりかえり（保育士の気づき）：

鳴き声が言語によって違う事に気づき、興味関心を持って「おもしろい」と感じながら探究活動をしている様子もあった。身近な鳴き声というものを通して、自分達とは違う文化があるということに気付くきっかけになったと感じた。

【5 歳児実施分】

問いを考える：身近な動物は 英語だとどのように鳴くのか？という問を通じて、国や文化や言語が違っていると表現も変わるならば、鳴き声以外の音はどうなるのか？と考え探究を深める。

探究活動の様子：

英語講師が複数のフラッシュカードを用いて、動物の名前の英語での言い方を紹介する。子どもに前に出てきてもらい、カードの紹介や鳴き声を発表してもらい、興味を持って活動に参加できるようにした。また、実際の動物の鳴き声を音源で聞き、英語と日本語での鳴き声を確認する。

動物の塗り絵をし、好きな色に仕上げることにより、さらに主体的に活動に参加していた。

保育者が子ども達に違いについて声をかけ、子ども達は自分の意見を言ったり、他児の考えを聞いて違いについて共有したり発言をする様子があった。

ふりかえり（保育士の気づき）：

子ども達の中には鳴き声が異なる事について知っている子もいたが、新しく知る鳴き声は興味深そうに聞いていた。鳴き声の違いを知ることによって、自分とは違う文化や世界には色々な表現があることを理解していき、鳴き声だけではなく、身近な物やことへの興味が広がることを感じた。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都小金井市本町 5-19-2
園名	アスク武蔵小金井北口保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

～音の鳴る仕組みを考えよう。

身の回りにある音について興味、関心を持ちオノマトペから感じる音のイメージなどニュアンスを知る。

<テーマの設定理由>

歌うことがや音楽を用いた表現が好きな子どもたちが多いため、聴覚を使った内容が合っていると感じたから。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ミュージックベル タッチ式 20 音 CBR-20T
- ・ミュージックベル タッチ式 20 音 CBR-20T 専用ケース

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：オノマトペと何か？音の鳴る仕組みとは？

探究活動の様子：

オノマトペを知る為、「もこもこ」を鑑賞し、オノマトペとはどんなものをイメージしていった。そこから生活の中での音の中からオノマトペを探す教材としてビンゴゲームのようなワークを行い、戸外活動で遊びながらオノマトペを探して活動を展開した。

また、イラストカードを見て自身でオノマトペを考えて発表し、お互いの考えたオノマトペを共有しあった。3 歳児は自分でイメージ出来る子どもと職員の助言が必要な子どもなど、発達の差も見られた。

絵本鑑賞の中のオノマトペから感じる音のイメージ(色、固さ、強さ、温度などのニュアンス)を発言しあい、イメージの共有をおこなった。

さまざまな楽器(弦楽器、管楽器、打楽器など)の音の出る仕組みに興味を持てるよう楽器を準備し、保育者や講師と実際に音を鳴らして親しんだ。また、音が出る仕組みの違いについて楽器を4種類に分けた呼び名を学んだ。仕組みに合わせ、トライアングルの振動を実際に触って体感したり、太鼓の上に紙相撲を置いて太鼓を叩き、「振動」が子ども達の目に見えるように工夫をして探究活動を行った。子ども達は楽器を触り「音が止まった」等、楽器の仕組みに興味津々の様子があった。

ふりかえり（保育士の気づき）：

ドラムを使用し、音の違いを聞かせた。波の音を表現する楽器を使用した際には、「波の音がする」と反応が見られ、子ども達が音をよく聞いて、感じていると実感した。探究活動を進めていくことで、子ども達の興味関心がさらに広がっていくと感じた。

【4 歳児実施分】

問いを考える： オノマトペとは何か？音の鳴る仕組み、音にはどんな種類があるのか？

探究活動の様子：

オノマトペを知る為、「もこもこ」を鑑賞し、オノマトペとはどんなものをイメージしていった。そこから生活の中での音の中からオノマトペを探す教材としてビンゴゲームのようなワークを行い、戸外活動で遊びながらオノマトペを探して活動を展開した。

また、イラストカードを見て自身でオノマトペを考えて発表し、お互いの考えたオノマトペを共有しあった。自分で考えたオノマトペを思い思いに発言していた。

絵本鑑賞の中のオノマトペから感じる音のイメージ(色、固さ、強さ、温度などのニュアンス)を発言しあい、イメージの共有をおこなった。

さまざまな楽器(弦楽器、管楽器、打楽器など)の音の出る仕組みに興味を持てるよう楽器を準備し、保育者や講師と実際に音を鳴らして親しんだ。また、音が出る仕組みの違いについて楽器を4種類に分けた呼び名を学んだ。仕組みに合わせ、トライアングルの振動を実際に触って体感したり、太鼓の上に紙相撲を置いて太鼓を叩き、「振動」が子ども達の目に見えるように工夫をして探究活動を行った。紙相撲を見た子どもからは「(紙相撲が)回ってる」「歩いているみたい」と振動で動いていることに反応をしたり、子ども達は楽器を触り「音が止まった」等、楽器の仕組みに興味津々の様子があった。

- ・音楽絵本を鑑賞し、オノマトペとは何かを知る
- ・イラストカードを見て自身でオノマトペを発する
- ・童謡の中に出てくるオノマトペを見つける
- ・オノマトペから感じる音のイメージ(色、固さ、強さ、温度などのニュアンス)を発言しあう
- ・さまざまな楽器(弦楽器、管楽器、打楽器など)の音の出る仕組みに興味を持ち、さらなる探求を行う

ふりかえり（保育士の気づき）：

オノマトペでは、絵本の読み聞かせをしどんな音が聞こえそうかの導入をすることで、見た目で“ドンドン”“カシャカシャ”などイメージしやすい様子があった為、導入が有効だと感じた。

カードで絵を見た印象や感想がその子その子で違うので表現の仕方が異なり、考えを共有する事により、違いについても楽しめていた。

【5 歳児実施分】

問いを考える： オノマトペとは何か？音の鳴る仕組みとは？音にはどんな種類があるのか？

探究活動の様子：

究活動の様子：

オノマトペを知る為、「もこもこ」を鑑賞し、オノマトペとはどんなものをイメージしていった。そこから生活の中での音の中からオノマトペを探す教材としてビンゴゲームのようなワークを行い、主体的な活動となるよう予めいくつか活動の中で聞こえそうな音を自分で考え、戸外活動などで遊びながらオノマトペを探して活動を展開した。

また、イラストカードを見て自身でオノマトペを考えて発表し、お互いの考えたオノマトペを共有しあった。自分で考えたオノマトペを思い思いに発言していた。

絵本鑑賞の中のオノマトペから感じる音のイメージ(色、固さ、強さ、温度などのニュアンス)を発言しあい、イメージの共有をおこなった。

さまざまな楽器(弦楽器、管楽器、打楽器など)の音の出る仕組みに興味を持てるよう楽器を準備し、保育者や講師と実際に音を鳴らして親しんだ。また、音が出る仕組みの違いについて楽器を4種類に分けた呼び名を学んだ。仕組みに合わせ、トライアングルの振動を実際に触って体感したり、太鼓の上に紙相撲を置いて太鼓を叩き、「振動」が子ども達の目に見えるように工夫をして探究活動を行った。子ども達は楽器を触り「ビリビリする」「(自分も)やってみたい」等、楽器の仕組みに興味津々の様子があった。

小グループの活動では、楽器を音の出る種類別に分ける探究活動を行った。子ども達同士で、「この楽器はこっちだね」とお互いに意見交換をしながら、グループでの意見をまとめている姿があった。

ふりかえり（保育士の気づき）：

室内の物で楽器を作る場面では、友だちと意見を出し合ったり、周りの友だちの様子を見て自分たちのグループの楽器作りに活かしていた。

弦鳴楽器や体鳴楽器などを学ぶ際は子ども同士で教え合っていたり、「〇〇楽器」という名前から、楽器を連想している子どももいた。カードを使用したゲームにも積極的に参加して、子ども同士で関わり合いながら活動を進めている姿が見られ、全体を通して理解の度合いには個人差がある様子ではあったが、楽しみながら行っていた。

保育者は内容が難しいかもしれないとも予想したこともあったが、ゲームにしたことにより、多くの子が挑戦して楽しめていた。自ら気付ける子どもは一部であったが、保育者の問いかけや他児との関りにより、理解をしていったり、探究する楽しさに触れた様子もあった。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都小金井市本町 5-19-2
園名	アスク武蔵小金井北口保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「ボール」ってなんだろう？

<テーマの設定理由>

外遊びをするときはボールを使用した遊びが好きなので、ボールに関する探究活動をすると子どもたちが興味を抱くと考えたため

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらった。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ビッグサッカーボール
- ・ミカサ ドッジボール
- ・ソフトフォームボール
- ・ボール入れキャリー

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える： ボールを使った遊びはいくつかあるけど、ボールをどのように跳ばすことで、どのように跳ぶのかを考えてみる。

探究活動の様子：

・ボール遊びとは何があるだろうかを体操講師と考え、ボール遊びをしながら探究活動を展開していった。まずはボールの特徴について触れ、ボールを跳ばすにはどのようにしたらいいかを試すため、マットにボールを当てるゲームをした。どういう投げ方ならマットにあたると考えながら投げ、マットに当たった子どもいれば当たらなかった子どもいたが、それぞれ投げ方を工夫している様子があった。

ボールにはいろんな大きさ、重さ、形、材質の物があることからボールの特徴を調べる活動では、小さいボールと大きなボールどっちがお友達に早く渡せるかな？と講師が問いかけをしながら爆弾ゲームをして確かめていった。子どもからは「大きい方が早く渡せる」という発言もあり、自分の考えを発言し、活発に話し合いをしながらゲームを行っていた。

その他には、小さなボールや大きいボールで玉入れをし、どっちが玉入れしやすいか考えて探究をした。子ども達からは「小さい方がたくさんあるから勝てる」などたくさん意見が出ていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

保育者や体操講師が「ボールはどの形が友だちに渡しやすいか」を問いかけ、子どもが考えやすいようにした。

取りやすいボールはどれか、小さいボールは投げやすい、蹴るにはどのボールが適しているか等、保育者の問いかけに子ども達は考えて発言し、実際に触れて試して見ることで、予想に対してどうだったかの結果を自分で体験できた機会になったように感じた。

子ども達はボールの形をよく見ており、差にも気づいていて、観察力があると改めて感じた。

【4 歳児実施分】

問いを考える： ボールを使った遊びはいくつかあるけど、ボールをどのように跳ばすことで、どのように跳ぶのかを考えてみる。

探究活動の様子：

ボール遊びとは何があるだろうかを体操講師と考え、ボール遊びをしながら探究活動を展開していった。まずは親しみのある爆弾ゲームをし、ボールを3種類用意しどのボールが落とさずに早く一周できるかを考えてみた。いろいろ考え実践した結果、大きい丸いボールが一番早く落とさずにできるという事がわかり、自分達で考えてみて試すことで発見しながらゲームをすすめている姿があった。

ボールには種類があり、素材や形でどのように違ってくるのかという点でも探究活動を行った。各自で好きな素材や好きな作り方でボールを作成し、後日、作り方や何の素材を使ったかを発表し合い、実際に素材ごとに投げ、それぞれの違いについて気づきを共有した。

ボールの遊び方では、遠くに飛ばした方がいいあそび、調整して投げるあそびなど、ボールは投げるだけでなく様々な扱い方ができることを知る、ボールによって結果が変わることを考えるという事を探究した。お腹にボールを挟んで運ぶゲームを活動として行い、大きなボール、小さなボールどちらが運びやすいか体験し結果は大きなボールという結果が出たことを子ども達と確認した。マットの筒に投げる実証も行い、小さなボールが投げやすいと子ども達から発言があり、共有して考えを話し合い、実際に行うことで気づきがあった様子が見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

投げやすいボールとは？の問いかけに、素材についてどんなものがあるか子ども達だけではイメージが浮かばず難しそうにしていた姿があった。探究活動のボール作りで保育者がヒントとして素材を何種類か準備すると、子ども達からは“大きさ”“重さ”に注目した発言があり、問かけに対してお互いに話し合い、各自が“大きい”“小さい”“重い”“軽い”と自らの考えを出すことができていた。

保育者のヒントから、自分の経験したことがあることや知っていることを他児や保育者に共有し、そこから考えを深める子どももいた。

【5 歳児実施分】

問いを考える：

- ・ボールの素材や形がどんな感触なのかを考えよう。
- ・ボールを使った遊びはいくつかあるけど、ボールをどのように跳ばすことで、どのように跳ぶのかを考えてみる。

探究活動の様子：

ボールにはいろんな大きさ、重さ、形、材質の物があることから、ボールの特徴を調べるという視点でゲームを通して活動を行った。大きさや形状の異なるボールを使いながら爆弾ゲームを行い、渡しやすくて受け取りやすいボールはどれだろう？という問いに、「小さい方が渡しやすい」「大きい方がもらしやすい」「トゲトゲがついているから滑らない」などの意見がでました。実際にやってみると予想とはまた違った意見になった。次は、どの遊びにどのボールがいいのか試してみたいという声も上がっていた。

ボールの素材や形がどんな感触なのかを考えようという問いに、自分達でボールを作成した。小グループで素材や形を相談しながら、グループ毎にボールを完成させ、他児の前で説明をしたり実際に投げたりして発表をした。

遠くに飛ばした方がいいあそび、調整して投げるあそびなど、ボールは投げるだけでなく様々な扱い方ができることを探究する為、中当て遊びを行った。遊びやルールによってボールが使いやすい使いにくいことがあることを各自の意見を伝え合い、共に発見があった。

ふりかえり（保育士の気づき）：

